

天吊形 据付工事説明書

PFA012D627B

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載しております。
電気配線（室内）は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取扱い方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。
ワイヤレスキットの取扱い方法は、ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。
室外ユニットの据付方法、電気配線（室外）及び冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。
また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。

安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、**▲警告**、**△注意**に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に**▲警告**の欄にまとめて記載しています。しかし、**△注意**の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる「図記号」の意味は右のとおりです。○絶対に行わない！必ず指示に従い行う！
- 据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認とともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法等）をお客様に説明してください。
- この取扱説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくよう依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書等をお渡しいただくよう依頼してください。

△警告

- 据え付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
据付けに不備があると破裂・ケガの原因となります。
- 小部屋に据付する場合は万一冷媒が漏れると、限界濃度を超えない対策をする。（JRA GL-13）
限界濃度を超える対策については、販売店と相談して据え付ける。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。
- 設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。
当社指定の部品を使用しないと、ユニット落下、水漏れや、火災、感電等の原因になります。
- 作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。
冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据え付けは、重量で十分耐える所に確実に行う。
重量が不足している場合は、ユニットの落下等により、ケガの原因になります。
- 台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。
据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。
- エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒（R410A）以外の空気等を入れない。
空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガ等の原因になります。
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「外線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。
カバーの取り付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因になります。
- 据付工事完了後、冷媒ガスが漏れないことを確認する。
冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロ等の火気に触ると有毒ガスが発生する原因になります。
- 配管、フレアナット、工具はR410A 専用のものを使用する。
既存（R22）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。
- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締め付ける。
フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。
- ドレンナットはイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。
室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内機を腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。
- 据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。
冷媒配管を取り付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- ボンバーダウン作業では、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取り付けは専門業者に依頼する。
ご自分で取付けされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。
- 改修は絶対にしないでください。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。
- エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
据え付けに不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。
- 室内機の修理・点検作業に際して「室内ユニット電源ブレーカー」を必ず落とす。
点検・修理にあたって、室内ユニット電源ブレーカーがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
- ドアパネルやガードを外した状態で運転しない。
機器の回転部に触れる、高温部、高電圧部に触れる、巻き込まれたり、やけどの原因になります。
- 元電源を切った後に電気工事を行う。
感電、故障や動作不良の原因になります。

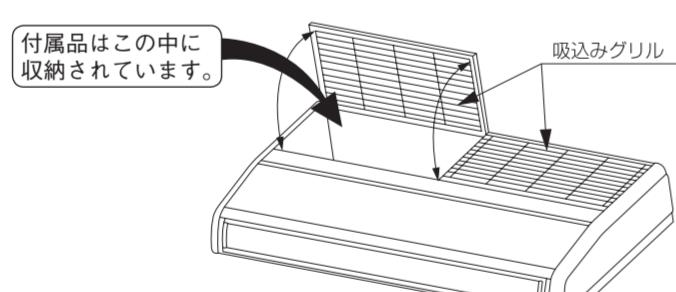
△注意	
●アース（接地）を確実に行う。 アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になります。	●漏電遮断器は必ず取り付ける。 漏電遮断器が取り付けられていないと火災や感電の原因になります。
●正しい容量の全極遮断するブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器+ B種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。 針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になります。	●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。 万ガスがユニットの周囲に漏ると、発火の原因になります。	●腐食性ガス（亜硫酸ガス等）、可燃性ガス（シンナー、ガソリン等）の発生、滞留の可能性のある場所、揮発性引火物を取扱う所での据付け、使用は行わない。 熱交の腐食、プラスチック部品の破損等の原因になります。また可燃性ガスは発火の原因になります。
●工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。 スペースが不足する場合は、設置場所からの軒下によるケガの原因になります。	●洗濯室等、水の掛かる場所では使用しない。 室内ユニットは水の浸入に対する保護はしておりません。水が掛かると感電、火災等の原因になります。
●食品・動物類・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。 保存物の品質低下等の原因になります。	●病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器の近く、高周波の発生する機器の近くでは据え付け、使用しない。 インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与える人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音等弊害の原因になります。
●直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。 リモコンの障害や変形の原因になります。	●次の場所への据え付けは避けた。 ・可燃性ガスの漏れる恐れがある所 ・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アノニアなど、・カーボン繊維や金属粉、パウダー等が浮遊する所 ・機器に影響する物質の発生する所 ・油の飛沫や蒸氣が多い所（調理場、機械工場等） ・高周波を発生する機械を使用する所 ・海浜地区等塩分の多い所 性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になります。
●次の場所への室内機の据え付けは避ける。（機種により異なる制限があるので、その指示に従うこと）。 ・吸入口、吹出口に風の障害物がある所 ・強度が不十分で振動が発生する所 ・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所 ・高周波に影響される機器のある所（TV およびラジオ等の近傍） ・ドレンの排水がとれない所 性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。	●エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。 湿度が 80% 以上の時や、ドレン排水が詰った場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じる恐れがあります。
●長期使用で傷んだままの据え付けを行なわない。 傷んだ状態で放置するとユニットの落下につながり、ケガ等の原因になります。	●ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、ユニット内へのスパッタの進入を防止する。 溶接作業時などに発生するスパッタがユニットにあたった場合、ドレンパン等に損傷（ビンホール）をあたえ、水漏れ等の原因になります。ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため梱包状態のままでおくか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。
●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に行なう。 不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になります。	●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に行なうように配管する。 ドレンパン等に損傷（ビンホール）をあたえ、水漏れ等の原因になります。
●冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れないことを確認してください。 万一、狭い部屋で漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となることがあります。	●GHP（ガスヒートポンプ）の場合は、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。 室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。
●ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。 試運転時に排水が確実に行なわれていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。	●ドレン配管の断熱は結露しないように確実に行なう。 不完全な断熱施工を行うと配管等表面が結露して、露たれ等を発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になります。
●室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。 小動物が侵入して、内部の電気部品に触れる、故障や煙煙・発火の原因になります。 また、お客様に周辺をきれいで保つことをお願いしてください。	●室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。
●製品の運搬は充分注意して行なう。 20kg 以上の製品は原則として 2 人以上で行ってください。PP バンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないで下さい。素手でフィンなどで触れるところをカバーする場合がありますので保護具をご使用ください。	●梱包材の処理は確実に行なう。 梱包材にクギ等の金属あるいは、木片等を使用していますので放置状態にしますとケガをする恐れがあります。
●フィルターをはずしたまま運転しない。 濡れた手でスイッチを操作しない。 感電の原因になります。	●ドレン中の冷媒配管を素手で触れない。 運転中の冷媒配管は流れの冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触ると凍傷や、やけどになります。
●運転停止後、すぐに電源を切らない。 必ず 5 分以上待ってください。水漏れや故障の原因になります。	●エアコンを水洗いしない。 電動の原因になります。
●電源ブレーカーによるエアコンの運転や停止しない。 火災や水漏れの原因になります。ファンが突然回り、ケガの原因になります。	●運転停止後、すぐに電源を切らない。 必ず 5 分以上待ってください。水漏れや故障の原因になります。

①据付のまえに

- 据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
- 次の項目を確認してください。
○機種・操作仕様 ○配管・配線・小物部品 ○付属品

付属品

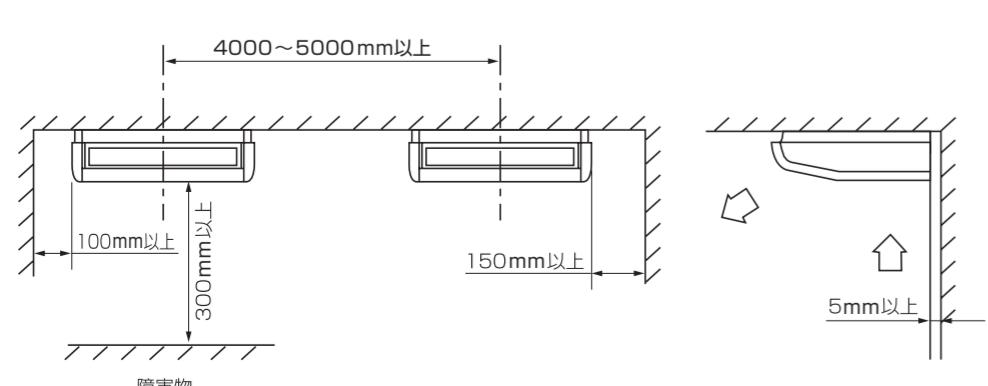
本体吊り込み用	冷媒配管用		ドレン配管用		吸込グリル用	
平座金（M10）	型紙	パイプカバー（大）	パイプカバー（小）	バンド	ドレンホース（クランプ式）	ホース クランプ
8個	1個	1個	1個	4本	1個	1個
ユニット吊下げ用	ユニット吊下げ用	ガス管断熱用	液管断熱用	パイプカバーフィクス	ドレン配管接続用	ドレンホース取付用



②室内ユニットの据付場所の選定

- 据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
 - ・冷風または温風が十分に行きわたる所。据付高さが 3m を超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレーターの併設をご指導ください。
 - ・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
 - ・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
 - ・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
 - ・侵入外気の影響のない所。
 - ・直射日光の当たらない所。
 - ・周囲の露点温度が 23°C 以下、相対湿度 80% 以下の所。
 - ・本ユニットは JIS 露付条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落する恐れがあります。天井埋込で据付する際は、ユニット天面に断熱材を貼り付ける等、結露に対する配慮をしてください。
 - ・テレビ、ラジオより 1m 以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります。）
 - ・ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器等濡れて困るものを置かない所。
 - ・フライヤーの真上など油・粉・蒸気等を直接、吸込まない所。
- 据付けようとする場所がユニット重量に耐えられるかどうかを検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、ユニット落下により、ケガの原因になります。
- 室内ユニットを隣接して設置する場合は、ユニット間距離を 4 ~ 5 m 以上離して設置してください。

室内ユニット据付スペース

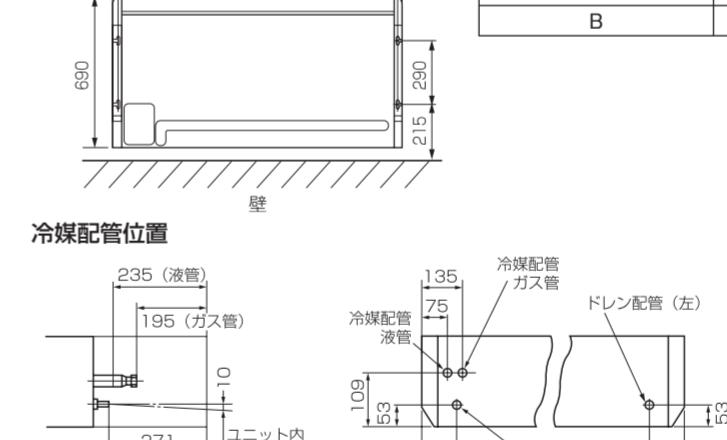


③据付け前の準備

- 吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
- システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
吊り長さ（吊りボルト長さ）500mm 以上又は天井ふとろ高さ 700mm 以上の場合は耐震プレースを設置する。
- 強度が充分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
吊り長さ（吊りボルト長さ）1000mm 以上の場合は耐震プレースを設置する。
- 吊りボルト・ナット・バネ座金（M10）を 4 組現地にて手配してください。

天井開口穴・吊りボルトピッチ・各配管の位置

天井開口穴・吊りボルトピッチ		
A	24	B
吹出口	600	24
壁	24	24
店舗	40 ~ 56 型	63 ~ 80 型
ビル空調	36 ~ 56 型	71 ~ 90 型
ガスヒートポンプ	112 ~ 160 型	112 ~ 160 型
A	1070	1320
B	1022	1272
	1620	1572

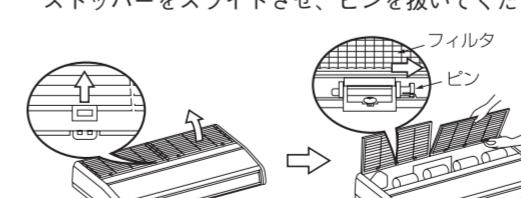


ユニットの搬入、据付

- 搬入時はできるだけ据付現場の近くまで梱包のまま搬入してください。
- 開梱して搬入する場合は、ナイロンスリングなどで包み、ユニットを傷つけないよう注意してください。
※サイドパネル、吹出ルーバー等、プラスチック部分を持たないでください。
- 開梱後ユニットをおく場合は、必ず吸込グリル側を上にして置いてください。

吊り込み前の準備

1. 吸込グリルの取り外し
ストッパーをスライドさせ、ピンを抜いてください。



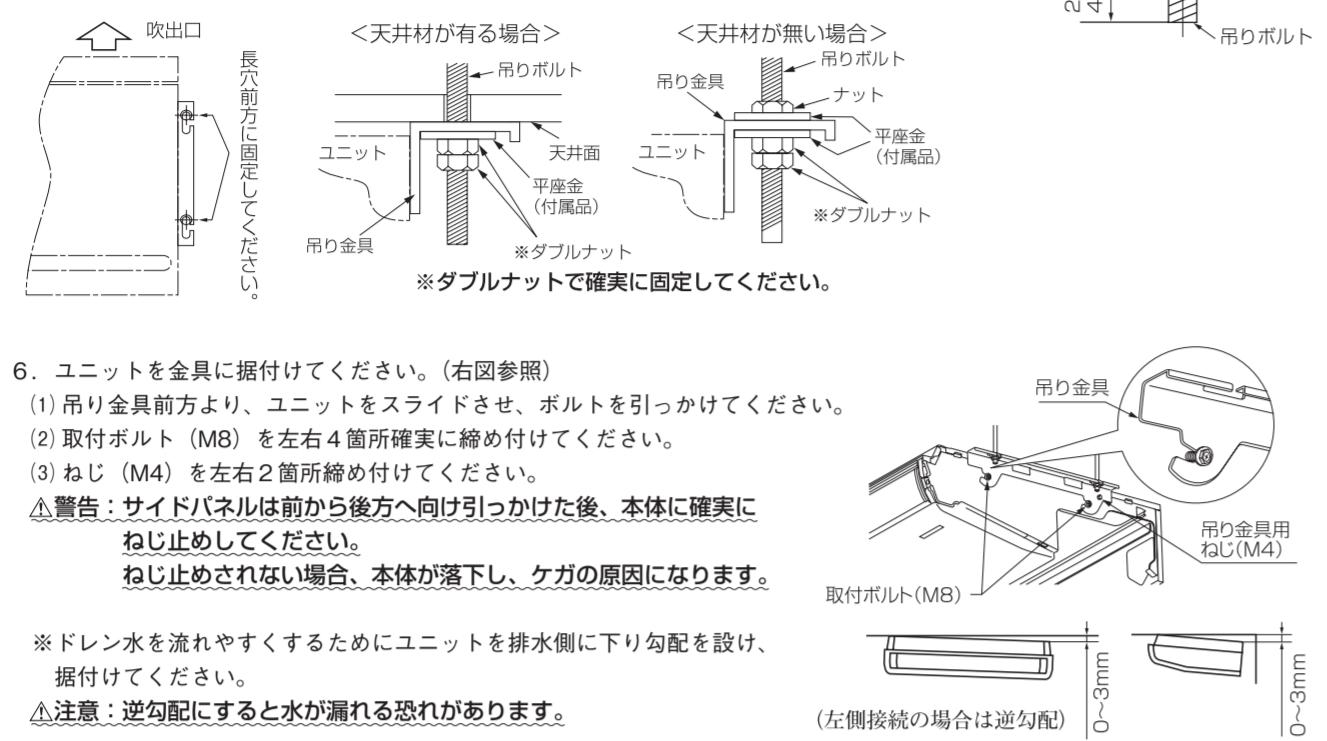
2. サイドパネルの取り外し
ねじを外し、矢印方向にスライドさせてください。



④室内ユニットの据付け

作業手順

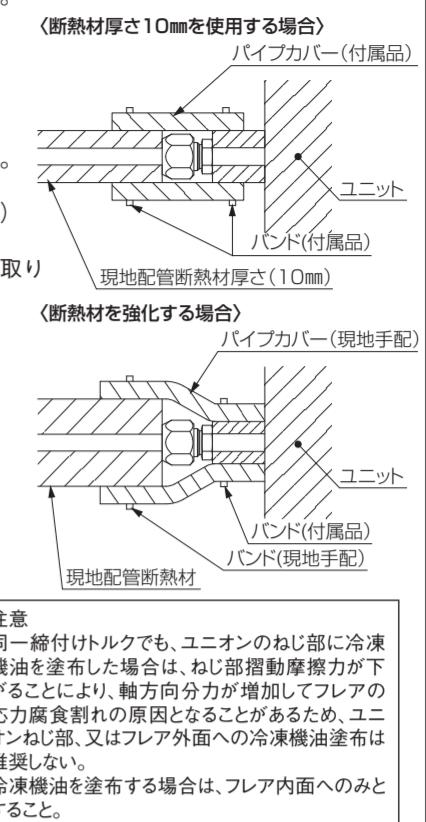
- 吊りボルト位置、配管位置を選定してください。
- 付属の型紙を目安にして、吊りボルト位置、配管穴位置を選定し、吊りボルトと配管用の穴あけを行ってください。
※注意：位置決定は、実測により行ってください。
- 位置決定後、型紙は取り外してください。
- 所定の位置に吊りボルトを設置してください。
- 吊りボルトは4本使用し、1本当たり500Nの引抜き荷重に耐えられるよう固定してください。
- 吊りボルト長さは右図の寸法を厳守ください。
- 吊り金具を吊りボルトに固定してください。



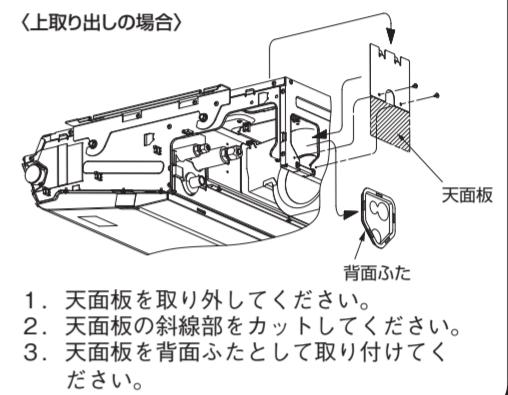
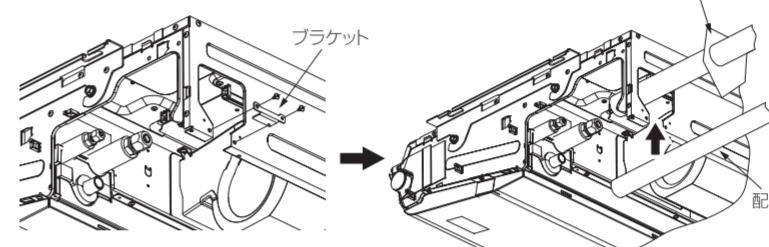
⑤冷媒配管の続き

作業手順

- 冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（C1220T、JIS H 3300）をご使用ください。また管の外表面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コントミ）の付着がないことを確認してください。
- R410A以外の冷媒は使用しないでください。
- 冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
- 据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともう付けする直前までシールしてください。
- 工具はR410A専用ツールを使用してください。
- 室内ユニットのフレアナット及びキャップを取り外す。
※ユニットの配管端部のフレアナットは必ずスパンナで2丁掛けで外してください。（このときガスが出ることがあります、異常ではありません。）
- フレアナット飛びに注意してください。（内部に圧力がかかる場合があります。）
- 液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。
後ろ・上取り出しの場合は、配管は⑦の電気配線と一緒にして、付属のふたを通して取り付けてください。
- 埃などが浸入しないよう、隙間をバテなどで塞いでください。
※配管の曲げは4D以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。
また配管をねじったり、2/3D以下につぶしたりしないでください。
- ※フレア接続は、以下のように行ってください。
・ユニットの配管端部のフレアナットは必ずスパンナで2丁掛けで外してください。
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3~4回転ねじ込み、2丁スパンナ掛けで左表の締付力で締めてください。
- 室内ユニットのフレア部はガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締めてください。
- ガス側配管・液側配管ともに断熱は完全に行ってください。
※配管は断熱しないと結露と水漏れします。
- ガス側配管の断熱材は耐熱120°C以上のものを使用してください。
- 高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。
強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
- 冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の説明書をご覗ください。



注意
同一締付けトルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部滑動摩擦力が下がることにより、軸方向力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあります。ユニオンねじ部、又はフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しない。
冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面のみとすること。

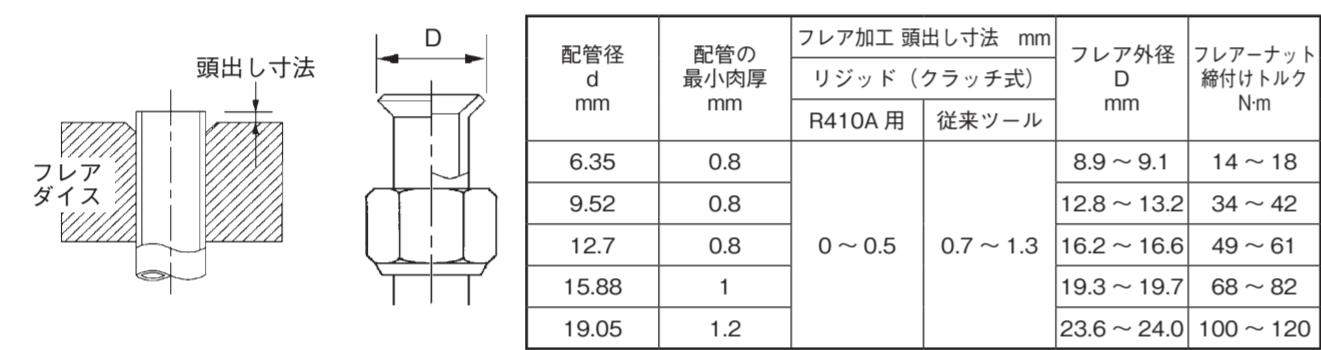


- 天面板を取り外してください。
- 天面板の斜線部をカットしてください。
- 天面板を背面ふたとして取り付けてください。

⑥ドレン配管

冷媒配管時の注意事項

- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの又はJIS B 8607 2種適合品をご使用ください。既設配管再利用の可否及び洗浄方法については、室外ユニットの説明書又はカタログ・技術資料で確認すること。
- 1) 再利用する場合、フレアナットは流用せずユニットに付属のもの又はJIS B 8607 2種適合品を使用すること。
- 2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R410A用のフレア加工をしてください。



⑥ドレン配管の続き

作業手順

- 付属のドレンホースを本体ドレンソケットの根元まで差しこみ、付属のクランプで確実に締めてください。（接着剤使用不可）
※ドレン配管を左側にて行う場合、本体の左側配管接続口に付いているゴム栓と断熱材（簡状）を右側接続口に付け替えてください。
△注意：ドレンホースを外す時には、水の飛び出しに注意してください。
- ドレンホースを付属の金具で最下点にて固定してください。
※ドレンホースはたるまないように固定し、右図のように10mmの勾配をつけてください。
●電気配線がドレンホースの下に入り込まないようにしてください。
△注意：ドレンホースは必ず金具で固定してください。
ドレン水がオーバーフローする恐れがあります。
- ドレンホースにVP-20（現地手配）を接続してください。
（接着剤使用不可）
※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP-20を使用してください。
- ドレン配管は下り勾配（1/100以上）とし、途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
- ドレン配管の断熱施工を行ってください。
●ドレンホースクランプは付属の断熱材を使用して断熱してください。
●高湿度の環境で使用する等、ドレン配管に結露がある場合は、ドレン配管に断熱材を追加する等結露に対する配慮をしてください。

ドレン排水テスト

- ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていること、水漏れのないことを確認してください。
- 暖房期の据付の際にも必ず実施してください。

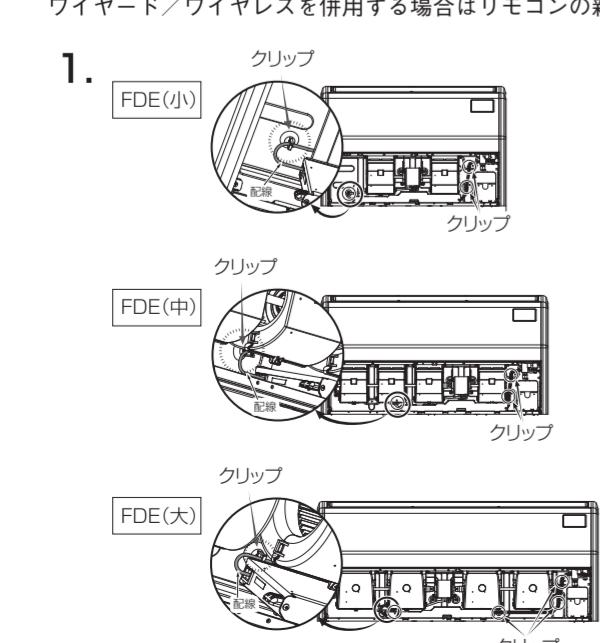
⑦電気配線取出し位置および電気配線接続の続き

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用して接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
- D種設置工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覗ください。

 - 配線をクリップから外してください。
 - 制御箱（ねじ①2本）を取り外してください。
 - 制御箱をブラケットの溝に沿ってスライドさせ引き出してください。（Ⓐ→Ⓑの方向）
 - 制御箱のふた（ねじ②2本）を取り外してください。
 - 各配線をユニット内に入れ、端子台に接続してください。
 - 各配線を電源線クランプで固定してください。
 - 制御箱のふた（ねじ②2本）を取り付けてください。
 - 制御箱をブラケットの溝に沿ってスライドさせ（Ⓑ→Ⓐの方向）、制御箱を元の位置へ戻してください。
 - 取外した部品を元通りに取付けてください。

*1 工場出荷時、端子台X-Y（現地接続側）には、ワイヤレスキット（オプション）受信部用配線が接続されています。ワイヤードリモコン接続時は外す必要はありません。

ワイヤード／ワイヤレスを併用する場合はリモコンの親子設定が必要となります。



⑦電気配線取出し位置および電気配線接続の続き

ドレン配管時の注意事項

- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
- ドレン配管はイオウ系ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。
室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
- 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
- 水漏れが起らないように、断熱工事を確実に行ってください。
- 施工後、ドレンが排水されていることを、ユニットドレンロップ及びドレン配管最終出口で確認してください。
- ドレン配管は下り勾配（1/100以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。試運転時に排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

⑥ドレン配管

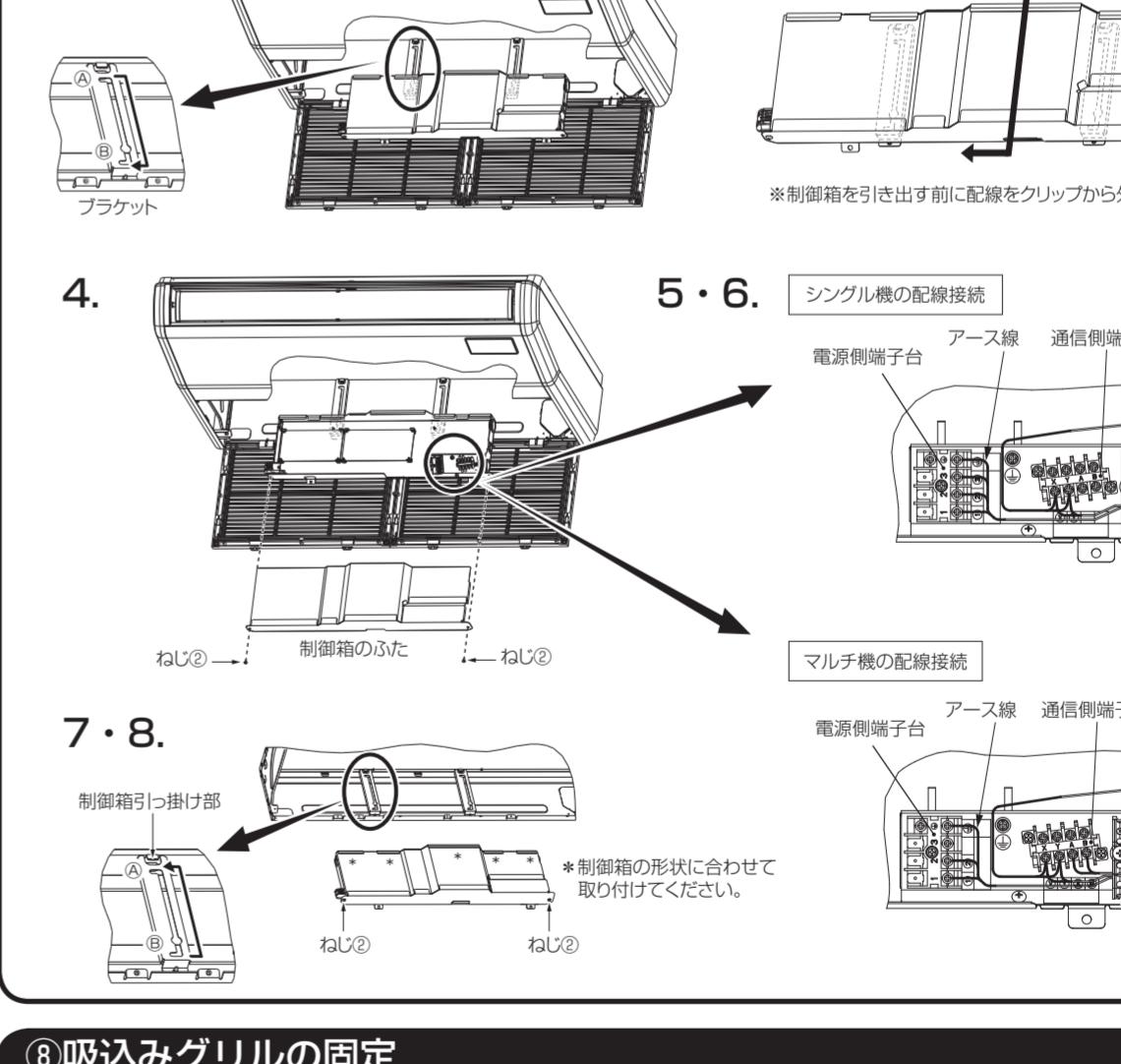
- ドレン配管の取出方向は、後向き、右向き、左向きがあります。

ドレン配管時の注意事項

- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
- ドレン配管はイオウ系ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。
室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
- 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
- 水漏れが起らないように、断熱工事を確実に行ってください。
- 施工後、ドレンが排水されていることを、ユニットドレンロップ及びドレン配管最終出口で確認してください。
- ドレン配管は下り勾配（1/100以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。試運転時に排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

⑧吸込みグリルの固定

- 電気配線工事完了後、吸込みグリルを固定してください。



⑨ユニット据付工事完了後のチェック項目

- ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良だと…	チェック欄
室内ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水は本体の板金に流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の板金と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤接続はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	